

# 天理図書館蔵の内賜本『老乞大諺解』について

——印出後の訂正状況を中心に——

竹 越 孝

## 1. はじめに

李氏朝鮮時代(1392-1911)に通訳養成機関である司訳院で用いられた『老乞大』は、『朴通事』とともに朝鮮半島において最も権威ある中国語会話教科書であった。この二書は高麗時代(918-1392)の末期に成立したと思われるが<sup>1)</sup>、その後ほぼ100年を経た成宗11年から14年(1480-1483)の間に、二人の中国人によって最初の改訂が行われたという<sup>2)</sup>。崔世珍(1467-1543)の『老朴集覧』(1517年以前)では、この改訂を経たテキストのことを「今本」または「新本」、改訂以前のテキストのことを「古本」または「旧本」と称している。この「古本/旧本」系統に属する木版本『老乞大』が、1998年に韓国の大邱市で発見されたことは記憶に新しいが、本稿で取り上げる『老乞大諺解』は「今本/新本」系の代表的なテキストの一つである<sup>3)</sup>。

## 2. 現存の『老乞大諺解』諸本

『老乞大諺解』の現存諸本については安秉禧(1996)が最も詳しいので、ここではそれを参照しつつ述べることにしたい。

司訳院の沿革を記した『通文館志』の巻八「書籍」条には、「内賜老乞大諺解：二本、康熙庚戌陽坡鄭相國啓令芸閣鉛字印行。」とある。これによれば、『老乞大諺解』は康熙庚戌年、即ち顯宗11年(1670)に鄭太和(陽坡はその号、1602-1673)が上啓し、芸閣(校書館)に活字で印行させたものということになる。現存しているのは「戊申字」(1668年鑄造)による銅活字本である<sup>4)</sup>。

韓国のソウル大学校奎章閣<sup>5)</sup>には『老乞大諺解』のテキストとして奎2044、奎2304、奎2347、奎1528の四本が所蔵されており、うち奎2044、奎2304、奎2347の三本はいずれも昌徳宮の倉庫であった「廂庫」の印記

を持っている。我々は奎2044の影印を奎章閣叢書第九『老乞大諺解』とその再印本<sup>6)</sup>、及び奎章閣資料叢書・語学篇一『老乞大・老乞大諺解』によって見ることができる。これらが現在のところ最も広く流通している『老乞大諺解』のテキストであることは言うまでもない。

しかし、安氏によれば、これらの影印の底本である奎2044は、印出後の訂正が施されていない、誤字を多く含んだままのテキストであるという。一般に「廂庫」の印記を持つテキストは紙質が良く、善本が多いことから、安氏は影印底本の選定が内容面での検討なしに、書物の外見と先入観によって行われたのではないかとしている<sup>7)</sup>。

ここでいう「訂正」とは、藤本(1994)に言うように「校了印出後になお誤字があり、それを正すためにその誤字を切除して正字に直すこと」を指す。なぜこのような訂正が行われるのかということについて、藤本氏は次のように述べている。

朝鮮の官版は、例えば百部印出されれば、その中八十部程は「内賜本」(又は「宣賜本」)と称して、王から臣下や官衙に賜わるのが普通である。この内賜本には王の権威が付与されており、誤字を含むことは許容されない。又上述の如くその中には地方官衙へ藍本として供するものもあり<sup>8)</sup>、やはり誤字の存在は許されない。しかし実際には誤字が存在し、それがために印出後に訂正が行われるのである。

安氏によれば、印出後の訂正が施された『老乞大諺解』のテキストには、慶北漆谷本(李敦柱氏蔵)、コロンビア大学のEast Asian Library(東亜図書館)所蔵本、及び奎章閣所蔵の奎1528という三本があり、このうち漆谷本とコロンビア大学本は内賜本、即ち王から臣下または官衙に下賜されたものであるという<sup>9)</sup>。

奎章閣の蔵書中に訂正本と未訂正本の両様が存在することは、1944年に奎章閣叢書の一冊として『老乞大諺解』が刊行された直後から意識されるようになり、翌年には金壽卿氏が影印底本と訂正本との比較対校を行って、「山川哲」名で奎章閣叢書の別冊附録『老乞大諸板の再吟味』(油印本、京城帝国大学法文学部、1945)<sup>10)</sup>を刊行したほか、その翌年には方鍾鉉(1946)が誤字と訂正に関するより詳細な調査結果を公にしている。なお、安氏によると影印底本においても巻上は訂正が施されており、未訂正であるのは巻下に限られるという。

さて、安氏は挙げていないが、印出後に訂正の施された『老乞大諺解』

としてはさらに一本、我が国の天理大学附属天理図書館に所蔵される内賜本がある。本稿は同本に関する書誌情報、とりわけその訂正の状況について報告するものである<sup>11)</sup>。

### 3. 天理図書館所蔵本の概略

本書は元天理大学教授の言語学者、今西春秋氏の旧蔵書であり、朝鮮史学者であった父今西龍氏（1875-1932）の蔵書を受け継いだものとされる。日本の現行目録類では、『今西博士蒐集朝鮮関係文獻目録』に、

老乞大諺解 不分巻 朝鮮 活（漢・諺文）線二本<sup>12)</sup>

と見えるにとどまるが、韓国で刊行された『海外典籍文化財調査目録』には比較的詳しい書誌が見られるので、以下に引いてみよう<sup>13)</sup>。

老乞大諺解 上下

李洙編。戊申字版。[肅宗後期～英祖初期]印。

二巻二冊。四周双辺、半郭24.6×16.9cm、有界、半葉10行19字、註双行。内向二葉花紋魚尾。33.4×21.5cm。線装。楮紙（綴じ代幅1.8cm）。

表題・版心題：老乞大諺解

印：「宣賜之記」「今西文庫」「今西春秋圖書」「天理圖書館」「天理圖書館蔵」

備考：8×8cm<sup>14)</sup>、表紙は改装され内賜記は落張。

登録：昭和49年11月15日

分類：829.1-タ11-1~2

筆者がこれを若干補うとすれば次のようになる。

第一冊：表紙左上に「老乞大諺解 上」と墨書、右下に「今西春秋圖書」朱印。見返しに「天理図書館 837303 昭和四九年十一月十五日」登録印。1a 匡郭外右上に「天理圖書館蔵」朱印、匡郭内右上に「宣賜之記」朱印、匡郭内右下に「今西龍」朱印。なお、「今西龍」朱印は21a 匡郭外右上及び64b 匡郭内左下にもある。64b 匡郭内左下に「今西文庫」朱印及び「昭和三五年三月三十一日 寄贈 天理大学」印。第1、2葉は全面裏打ち、第56葉より第64葉までは版心上部を中心に裏打ちし欠落部分を補写。

第二冊：表紙左上に「老乞大諺解 下」と墨書、また右下に「今西春秋圖書」朱印。見返しに「天理図書館 837304 昭和四九年十一月十五日」登録印。1a 匡郭外右上に「天理圖書館蔵」朱印、匡郭内右下に「今西龍」

朱印。「今西龍」朱印は25a 匡郭外右上及び66b 匡郭内左下にもあり。66b 匡郭内左下に「今西文庫」朱印及び「昭和三五年三月三十一日 寄贈 天理大学」印。すべての葉で版心上部を中心に裏打ちし欠落部分を補写。

二冊とも文字にかかる欠落部分が存在することは残念であるが、第一冊の巻頭に「宣賜之記」朱印を持つことから、本書が内賜本であることは疑いない。全般的記述は以上にとどめ、次に本稿の主題である本書の訂正状況について検討することにした。

#### 4. 廂庫本・訂正本との比較

以下では、この天理図書館所蔵本を、方鍾鉉(1946)において言及される奎章閣所蔵の二本と比較することによって、その訂正状況を明らかにしたいと考える。方氏は同論文の中で、奎章閣叢書の影印底本となった奎2044を「廂庫本」、訂正が施された奎1528を「訂正本」と記しているので、以降はこの呼称に従う。

方氏の論文では、巻上について42項目、巻下について143項目の言及が見られる。以下では最初にその言及を引き、◎の後に筆者が調査した天理本の状況を記す。方氏の言及は、原文そのものを翻訳して示すのではなく、筆者が適宜要約またはパラフレーズした形で示す。中にはどちらのテキストについてであるかが明示されていない部分や、テキストの比較結果というよりは校記に類する記述もあるが、無理に判断を加えずそのまま示すこととする。なお、方氏の論文においてミスプリや不明確と思われる記述がある場合には注記する<sup>15)</sup>。

問題となる箇所は巻・葉・表裏・行数/字数・左右の順に記し、特に漢字音の表記が問題になる場合には〔 〕内にその漢字を記す。ハングルは河野式ローマ字転写で表すこととするが、字形の区別を明確にするため、以下の6字母については河野式と異なる転写を用いる：s (ハ)、ss (カ)、c (ナ)、j (ソ)、jj (ソ)、iuic (ソ)<sup>16)</sup>。また、特にハングルの字形が問題になる場合にはカッコ内にその字母を掲げる。

なお、以下においては「この部分を切り取って紙を貼り、筆で××を記入」とか「活字で××を印字」というような言い方をしているが、厳密に言えば記入ないし印字した紙を貼付したのか、紙を貼付してから記入ないし印字したのかはわからない<sup>17)</sup>。記述を簡略化するための便宜的措置

であることを付言しておく。

#### 4.1. 巻上

1. 上1a1/4左右〔乞〕：二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左 ki'、右 ki を記入する。  
◎切り取って紙を貼り、筆で左 ki'、右 ki を記入する。
2. 上3b2/8左右〔三〕：二本とも左が san で右が san であるべきところ、左右が逆である<sup>18)</sup>。  
◎左が san で右が san である。
3. 上3b3/3右〔撤〕：二本とも cie の下の終声部分を切り取り、白紙を添付する。  
◎cie の下の終声部分を切り取り、白紙を貼付する。
4. 上3b8/1右〔般〕：もとの活字は bien、廂庫本は刃物で一画削って ben に作る (ヨ→ナ)。訂正本は筆でぼかし ben に作る。  
◎活字 bien を筆でぼかし ben に作る。
5. 上4a7/6左〔傳〕：もとの活字 wu に筆を補い vu に作る (ㄩ→ㄩ̄)。  
◎活字 wu に筆を補い vu に作る。
6. 上4b3/8左：二本とも活字 'or を刃物で削り 'yr に作る (ㄨ→ㄩ)。  
◎活字 'or を刃物で削り 'yr に作る。
7. 上6b7/10右〔兒〕：二本とも zyr であるが zur に作るべきである。  
◎zyr に作る。
8. 上7b7/1左〔毛〕：mav は maw に作るべきである。  
◎mav に作る。
9. 上10b7/12左〔錢〕：活字 jien に筆を補い jien に作る (ㄩ→ㄩ̄)。  
◎活字 jien に筆を補い jien に作る。
10. 上10b10/13左〔盤〕：二本とも活字 bbien を筆でぼかし bben に作る (ヨ→ナ)。  
◎活字 bbien を筆でぼかし bben に作る。
11. 上10b10/15左〔繩〕：活字 jien に筆を補い jien に作る (ㄩ→ㄩ̄)<sup>19)</sup>。  
◎活字 jien に筆を補い jien に作る。
12. 上11a4/8左右〔三〕：左が san で右が san であるべきところ逆である。  
◎左が san で右が san である。
13. 上12a5/2右〔錢〕：cien は cien に作るべきである<sup>20)</sup>。

◎ *çien* に作る。

14. 上12b10/19右：二本とも *men* であるが、眞筥本は *nen* に作るので *men* は誤りである<sup>21)</sup>。

◎ *men* に作る。

15. 上15a4/14左〔舅〕：二本とも活字が脱落していた箇所に筆で *ggiw* を記入する。

◎もと空格だった箇所に筆で *ggiw* を記入する。

16. 上15a8/12左右〔親〕：二本とも左右の終声の部分を取り取って紙を貼り、筆で *n* (ㄣ) を記入する。

◎左右の終声の部分を取り取って紙を貼り、筆で *n* を記入する。

17. 上15b4/17右〔口〕：活字 *kyu* の部分を切り取って紙を貼り、筆で記入する。

◎活字 *kyu* における *ky* (ㄩ) の部分を切り取って紙を貼り、筆で記入する。

18. 上15b9/18左：二本とも活字 *kyn* における初声の部分を取り取って紙を貼り、筆で記入する。廂庫本では「ヒ」のような形をしているが、訂正本では正しく *k* (ㄎ) に作る<sup>22)</sup>。

◎活字 *kyn* の初声を取り取って紙を貼り、筆で *k* を記入する。

19. 上16a9/12左〔稻〕：活字 *daw* の初声 *d* に筆で縦線を加え *ddaw* に作る (ㄉ→ㄉㄨ)<sup>23)</sup>。

◎活字 *daw* の初声 *d* に筆で縦線を加え *ddaw* に作る。

20. 上19a8/9左〔伴〕：活字 *ben* の初声 *b* に筆で縦線を加え *bben* に作る (ㄅ→ㄅㄨ)<sup>24)</sup>。

◎活字 *ben* の初声 *b* に筆で縦線を加え *bben* に作る。

21. 上19b8/7右〔調〕：二本とも活字 *riao* の初声 *r* を刃物で削り *tiao* に作る (ㄨ→ㄨㄟ)<sup>25)</sup>。

◎活字 *riao* の初声 *r* の一部を刃物で削り、また筆で一画を加えて *tiao* に作る。

22. 上19b9/8左〔了〕：もとの活字が *rav* であるところ、廂庫本は筆で一画を加えて *riav* に作る (ㄌ→ㄌㄨ)。訂正本ではさらにその終声部分に筆を加え *riaw* に作る (ㄨ→ㄨㄨ)<sup>26)</sup>。

◎活字 *rav* に筆で一画を加えて *riav* とし、さらに終声の *v* を *w* に筆で改めようとした形跡が見られるが、不完全である。

23. 上20b6/4右〔稱〕：二本とも cing は cing に作るべき。  
◎ cing に作る。
24. 上20b6/8左右；上20b7/18左右〔三〕：左が san で右が san であるべきところ逆である。  
◎左が san で右が san である。
25. 上21b8/8左：二本とも ryr における r (ㄹ) の活字が倒置している。  
◎ ryr における初声 r の活字が倒置している。
26. 上23b8/4右〔了〕；23b9/4右〔了〕：二本とも切り取った箇所紙を貼り、筆で riao を記入する。  
◎23b9/4右の部分は切り取って紙を貼り、筆で riao を記入する<sup>27)</sup>。
27. 上37b10/10右：二本とも gy における g (ㄱ) の横線を欠く。  
◎ gy における g の横線がかすれている。
28. 上37b4/3右：二本とも dog がかすれている。  
◎ dog がややかすれている。
29. 上38b4/3左：二本とも活字 'i に筆で終声 n (ㄴ) を加え 'in に作る。  
◎活字 'i に筆で終声 n を加え 'in に作る。
30. 上42a7/19右；42a8/18右：二本とも dur であるべきところを dyr に作る。  
◎ dyr に作る。
31. 上44a8/12右〔忽〕：二本とも活字 jy に筆で終声 m (ㅁ) を加え jym に作る。  
◎活字 jy に筆で終声 m を加え jym に作る。
32. 上45b10/14左：二本とも jai がかすれている。  
◎ jai がかすれている。
33. 上46b7/9左：二本とも ne がかすれている；上46b7/15右〔漢〕：二本とも han がかすれている。  
◎ ne の初声 n (ㄴ)、han の初声 h (ㅎ) がかすれている。
34. 上50a8/1左：二本とも jig がかすれている。  
◎ jig がかすれている。
35. 上51a8/1右：二本とも dur であるべきところを dyr に作る。  
◎ dyr に作る。
36. 上52a1/15右〔高〕：二本とも gio に見えるが gao に作るべきである。  
◎ gao に作る。
37. 上55b6/8右〔自〕：もとの活字が ju であるところ、廂庫本は刃物で e

を削り筆で y を加えて jy に作る (・→一) ; 訂正本は e の上に筆で y を書き加えて jy に作る。

◎活字 je における e の上に筆で y を書き加えて jy に作る。

38. 上61a3/2左右〔自〕: 二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左 jyz、右 jy を記入する。

◎切り取って紙を貼り、筆で左 jyz、右 jy を記入する。

39. 上61a3/4右〔看〕: この部分を切り取って紙を貼り、筆で kan を記入する。

◎切り取って紙を貼り、筆で kan を記入する。

40. 上61a5/18右: 訂正本では bang に見える。

◎ bang に作る。

41. 上62b1/7: 二本とも「入」に作るべきところ「八」に作る。

◎「八」に作る。

42. 上62b4/11右〔要〕: 二本とも 'iao がかすれている。

◎ 'iao における ia (卜) の部分がかすれている。

## 4.2. 巻下

1. 下1a6/16左〔高〕: 廂庫本は活字 gav を筆で gaw に改める (ㄱ→ㄱ); 訂正本はもともと gaw である。

◎もともと gaw である。

2. 下1b1/14右: 廂庫本は di に改めた形跡がある; 訂正本はもともと di である。

◎もともと di である。

3. 下1b2/19左: 廂庫本は jai に作る; 訂正本は jei に作る。

◎ jei に作る。

4. 下1b3/10左〔遠〕: 廂庫本は 'iuien に作る; 訂正本は ngiuien に作る<sup>28)</sup>。

◎ ngiuien に作る。

5. 下3b2/1右: 廂庫本ではかすれており未詳; 訂正本によると 'eb である。

◎補写された部分であり判読不能。

6. 下3b6/10右: 廂庫本は ji に作る; 訂正本は jai に作る。

◎ jai に作る。



7. 下3b8/9右：廂庫本は活字 ddai の初声 dd を刃物で削り d に改める (ㄨ→ㄨ)；訂正本はもともと dai である。  
◎もともと dai である。
8. 下3b8/8左：廂庫本は ten に作る；訂正本は den に作る。  
◎den に作る。
9. 下3b10/3右〔貴〕：廂庫本は gue に作る；訂正本は gui に作る。  
◎gui に作る。
10. 下4a1/11右〔恠〕：廂庫本は koai に作る；訂正本は goai に作る。  
◎goai に作る。
11. 下4b5/19右：廂庫本は jai に作る；訂正本は jei に作る。  
◎jei に作る。
12. 下4b9/18右：廂庫本は sgi に作る；訂正本は sga に作る。  
◎sga に作る。
13. 下5a9/4右：廂庫本は 'an に作る；訂正本は 'en に作る。  
◎'en に作る。
14. 下5b3/2右：廂庫本は 'e に作る；訂正本は 'i に作る。  
◎'i に作る。
15. 下5b4/15右〔遼〕：廂庫本は rao に作る；訂正本は riao に作る<sup>29)</sup>。  
◎raio に作る。
16. 下5b5/9右：廂庫本は 'en に作る；訂正本は 'an に作る。  
◎'an に作る。
17. 下6a8/18左〔時〕：廂庫本は sšyz に作る；訂正本は sšyz に作る<sup>30)</sup>。  
◎sšyz に作る。
18. 下6a9/14左〔尋〕：廂庫本は sšin に作る；訂正本は sšin に作る<sup>31)</sup>。  
◎sšin に作る。
19. 下6b1/11左〔處〕：廂庫本は čiu に作る；訂正本は čiu に作る<sup>32)</sup>。  
◎čiu に作る。
20. 下6b2/9左右〔送〕、6b3/14左右〔送〕：廂庫本は左が sung で右が šung、かつ活字は左が大きく右が小さい；訂正本は左が šung で右が sung、かつ活字は左が小さく右が大きい<sup>33)</sup>。  
◎左が šung で右が sung、かつ活字は左が小さく右が大きい。
21. 下7a5/16左〔子〕：廂庫本は jyz に作る；訂正本は jyz に作る<sup>34)</sup>。  
◎jyz に作る。

22. 下7a9/3左〔只〕：廂庫本は jyz に作る；訂正本は Jyz に作る<sup>35)</sup>。  
◎補写部分であり判読不能。
23. 下7a10/8右：廂庫本は空格である；訂正本は bden に作る。  
◎ bden に作る。
24. 下7b4/13左〔只〕：廂庫本は j yng に作る；訂正本は Jyz に作る<sup>36)</sup>。  
◎ Jyz に作る。
25. 下8a6/10左：廂庫本は rem に作る；訂正本では活字を上下倒置し mer に作る。  
◎ mer に作る。
26. 下8a7/7左〔黄〕：廂庫本は hhoa に作る；訂正本は hhoang に作る。  
◎ hhoang に作る。
27. 下8a9/15右：廂庫本は jam に作る；訂正本は jiam に作る。  
◎ jiam に作る。
28. 下8b1/13左〔環〕：廂庫本は hhoa に作る；訂正本は hhoan に作る。  
◎ hhoan に作る。
29. 下8b7/6右：廂庫本は gue に作る；訂正本は gui に作る。  
◎ gui に作る。
30. 下9a2/19右〔疥〕：廂庫本では活字 sgei の s(人)を削って giei とする；訂正本はもともと giei である。  
◎もともと giei である。
31. 下10a1/1左右〔要〕：訂正本はこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左 'iaw、右 'iao を記入する<sup>37)</sup>。  
◎この部分を切り取って紙を貼り、筆で左 'iaw、右 'iao を記入する。
32. 下10a1/9左右〔討〕：廂庫本はこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左 taw、右 tao を印字する；訂正本はもともと左 taw、右 tao である<sup>38)</sup>。  
◎もともと左 taw、右 tao である。
33. 下10a9/8左：廂庫本は空格である；訂正本は sgei に作る。  
◎ sgei に作る。
34. 下10b2/14左：廂庫本は活字 giei を刃物で削り gei に作る(非→卩)；訂正本はもともと gei である。  
◎もともと gei である。
35. 下10b9/18右：廂庫本は活字 ne に筆で一画加えて nei とする

(十→卍)；訂正本はもともと nei である。

◎もともと nei である。

36. 下11a1/18右：廂庫本は derg に作る；訂正本は derb に作る。

◎ derb に作る。

37. 下11b8/3左〔般〕：廂庫本は bien に作る；訂正本は ben に作る。

◎ ben に作る。

38. 下11b8/7左〔價〕：廂庫本は gie に作る；訂正本は gia に作る。

◎ gia に作る。

39. 下11b8/13右〔賈〕：廂庫本は mei に作る；訂正本は mai に作る。

◎ mai に作る。

40. 下11b8/15右：廂庫本は活字 ne に筆で一画加え nei とする(十→卍)；訂正本はもともと nei である。

◎もともと nei である。

41. 下12b7/11：廂庫本は「好」に作る；訂正本は「銀」に作る。

◎「銀」に作る。

42. (不明)<sup>39)</sup>

43. 下13b7/4左〔分〕：廂庫本は vvyn に作る；訂正本は vyn に作る。

◎ vyn に作る。

44. 下16b3/19左：廂庫本はこの部分を切り取って紙を貼り、活字で rym を印字する；訂正本では筆で rym を記入する。

◎この部分を切り取って紙を貼り、筆で rym を記入する。

45. 下21a3/1-3左：廂庫本は rem-'i-ni；訂正本ではこの部分を切り取って紙を貼り、筆で rem-'i-ra を記入する。

◎この部分を切り取って紙を貼り、筆で rem-'i-ra を記入する。

46. 下21a7/16左右〔到〕：廂庫本は左 dao、右 daw；訂正本ではこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左 daw、右 dao を記入する。

◎この部分を切り取って紙を貼り、筆で左 daw、右 dao を記入する。

47. 下22a1/19左：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で sgie を印字する。

◎もともと sgie である。

48. 下22a2/18右：廂庫本では活字 ce に筆を加え cei とする(十→卍)。

◎もともと cei である。

49. 下22b2/5左〔褐〕：廂庫本では空格である；訂正本では hhe' に作る。

- ◎ hhe' に作る。
50. 下22b3/9左：廂庫本では空格である；訂正本では myin に作る<sup>40)</sup>。
- ◎ myin に作る。
51. 下22b6/14右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で「紗」を印字する。
- ◎ もともと「紗」である。
52. 下23a2/1：訂正本では 'o が右にある<sup>41)</sup>。
- ◎ 'o は右にある。
53. 下23b2/9右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で「易」を印字する。
- ◎ もともと「易」である。
54. 下23b6/15右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で「蘇」を印字する。
- ◎ もともと「蘇」である。
55. 下24a1/7右：廂庫本では ges に作る；訂正本では gies に作る。
- ◎ gies に作る。
56. 下24a7/17右：廂庫本では dyn に作る；訂正本では tyn に作る。
- ◎ tyn に作る。
57. 下25a1/12左右〔京〕：廂庫本では左右とも gin に作る；訂正本では左右とも ging に作る。
- ◎ ging に作る。
58. 下25a6/16右：廂庫本では myn に作る；訂正本では gym に作る。
- ◎ gym に作る。
59. 下25a8/17右〔買〕：廂庫本では mei に作る；訂正本では mai に作る。
- ◎ mai に作る。
60. 下25a10/7左：廂庫本では nun に作る；訂正本では non に作る。
- ◎ non に作る。
61. 下25b9/15：廂庫本では「官」の活字が上下倒置している。
- ◎ 「官」は倒置していない。
62. 下26b4/19右：廂庫本では空格である；訂正本では 'yn に作る。
- ◎ 'yn に作る。
63. 下28a8/18左右：廂庫本では左が na で右が nen である；訂正本では左が nen で右が na である。

- ◎左が *nen* で右が *na* である。
64. 下29b1/10左〔撰〕：廂庫本では *giav* に作る；訂正本では *bav* に作る。  
◎ *bav* に作る。
65. 下29b6/8右：廂庫本では *dung* に作る；訂正本では *gung* に作る。  
◎ *gung* に作る。
66. 下29b6/4左：廂庫本では *do* に作る；訂正本では *dong* に作る。  
◎ *dong* に作る。
67. 下30b10/9左右：廂庫本では左が 'yi で右が 'a である；訂正本では左が 'a で右が 'yi である。  
◎左が 'a で右が 'yi である。
68. 下31a5/1左右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左 *nam*、右 *dong* を印字する。  
◎もともと左 *nam*、右 *dong* である。
69. 下31b2/9左：廂庫本では *meg* に作る；訂正本では *myi* に作る。  
◎ *myi* に作る。
70. 下32a5/14左：廂庫本では *sis* に作る；訂正本では *ses* に作る。  
◎ *ses* に作る。
71. 下32a6/8左：廂庫本では *cin* に作る；訂正本では *cib* に作る。  
◎ *cib* に作る。
72. 下32a8/11右：廂庫本では活字 *de* に筆で一画加え *dai* に作る (一→||)<sup>42</sup>；訂正本はもともと *dei* である。  
◎もともと *dei* である。
73. 下32a8/17右〔在〕：廂庫本では活字 *ji* に筆を加え *jai* に作る (一→||)。  
◎ *jai* と思われるが *ai* (||) の部分はややかすれている。
74. 下32b7/11右：廂庫本では 'ue に作る；訂正本では 'ui に作る。  
◎ 'ui に作る。
75. 下32b9/10左：廂庫本では *syr* に作る；訂正本では *sur* に作る。  
◎ *sur* に作る。
76. 下32b10/17右：廂庫本では *me* に作る；訂正本では *mei* に作る。  
◎ *mei* に作る。
77. 下34a4/16左右〔肺〕：廂庫本では左右とも *bing* に作る；訂正本では左右とも *vi* に作る。  
◎左右とも *vi* に作る。

78. 下34a5/19左右：廂庫本では左右とも tyu に作る；訂正本では左右とも tu に作る。  
◎左右とも tu に作る。
79. 下34a8/19右：廂庫本では jei に作る；訂正本では不明確ながら sei に見える。  
◎ jei における j (ㄨ) の横線がかすれており s (人) に見える。
80. 下34a9/16右：廂庫本では jei に作る；訂正本では jiei に作る。  
◎ jiei に作る。
81. 下34b2/4右：廂庫本では das に作る；訂正本では dais に作る。  
◎ dais に作る。
82. 下34b3/10右：廂庫本では sui に作る；訂正本では suis に作る。  
◎ suis に作る。
83. 下34b6/19左：廂庫本では sig に作る；訂正本では sag に作る。下34b7/1-2：廂庫本では hen-sbai-sgy に作る；訂正本では hen-sbie-sgys に作る。  
◎それぞれ sag、hen-sbie-sgys に作る。
84. 下34b7/8右：廂庫本では gue に作る；訂正本では gui に作る。  
◎ gui に作る。
85. 下34b9/2右〔葡〕：廂庫本では空格である；訂正本では pu に作る。  
◎ pu に作る。
86. 下35a5/17右：廂庫本では 'eb に作る；訂正本では 'ab に作る。  
◎ 'ab に作る。
87. 下35a8/2右〔頭〕：廂庫本では tyu に作る；訂正本は誤って kyu に作る。  
◎ kyu に作る。
88. 下36a1/8-9右：廂庫本では 'ir-pe に作る；訂正本では 'ar-py に作る<sup>43)</sup>。  
◎ 'ar-py に作る。
89. 下36a9/9右：廂庫本では pe に作る；訂正本では py に作る。下36a9/5左：廂庫本では mi に作る；訂正本では me に作る。  
◎それぞれ py、me に作る。
90. 下36b7/8右：廂庫本では空格である；訂正本では tir に作る。  
◎ tir に作る。
91. 下36b8/11右：廂庫本では byg に作る；訂正本では bog に作る。  
◎ bog に作る。

92. 下36b9/17右：廂庫本では 'ai に作る；訂正本では 'ei に作る。  
◎ 'ei に作る。
93. 下37a8/11左：二本ともこの部分を切り取って白紙を貼付する。  
◎この部分を切り取って白紙を貼付する。
94. 下37b5/16右：二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で rem を記入する。  
◎切り取って紙を貼り、筆で rem を記入する。
95. 下40b9/2左右〔瘦〕：二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左 šyw、右 syu を記入する<sup>44)</sup>。  
◎切り取って紙を貼り、筆で左 šyw、右 syu を記入する。
96. 下41a9/14右：二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で sber を記入する。  
◎切り取って紙を貼り、筆で sber を記入する。
97. 下41b8/5左〔結〕：二本とも空格に筆で gie' を記入する。  
◎空格に筆で gie' を記入する。
98. 下41b9/16右：二本ともこの部分を切り取って紙を貼り、筆で 'o を記入する。  
◎切り取って紙を貼り、筆で 'o を記入する。
99. 下43a7/15右：訂正本はこの部分を切り取って紙を貼り、筆で siei を記入する<sup>45)</sup>。  
◎切り取って紙を貼り、筆で siei を記入する。
100. 下43b1/1右：訂正本はこの部分を切り取って紙を貼り、筆で myr を記入する<sup>46)</sup>。  
◎補写部分であり未詳。
101. 下43b3/1：廂庫本は「廢」に作る；訂正本は「磨」に作る。  
◎「磨」に作る。
102. 下43b6/19：訂正本はこの部分を切り取って紙を貼り、筆で「孳」を記入する<sup>47)</sup>。  
◎切り取って紙を貼り、筆で「孳」を記入する。
103. 下43b9/6右〔娘〕：廂庫本はこの部分を切り取って紙を貼り、活字で niang を印字する。  
◎もともと niang である。
104. 下44a3/8右〔狗〕：廂庫本は kyu に作る；訂正本は gyu における gy(コ)

- の部分を取り取って紙を貼り、筆で記入する<sup>48)</sup>。  
◎ gyu における gy の部分を取り取って紙を貼り、筆で記入する。
105. 下44a5/14-15左：廂庫本は pe-jie に作る；訂正本は 'yi-jib に作る。  
◎ 'yi-jib に作る。
106. 下44b6/1左右〔錢〕：廂庫本ではこの部分を取り取って紙を貼り、活字で左 jien、右 cien を印字する<sup>49)</sup>。  
◎もともと左 jien、右 cien である。
107. 下44b6/19：廂庫本はこの部分を取り取って紙を貼り、活字で「幫」を印字する。  
◎もともと「幫」である。
108. 下45a1/19右：廂庫本はこの部分を取り取って紙を貼り、活字で ssen を印字する。  
◎もともと ssen である。
109. 下45a10/2左〔褶〕：廂庫本では活字 ji' に筆を加え jie' に作る (丨→彡)<sup>50)</sup>。  
◎もともと jie' である。
110. 下45b1/10：廂庫本は「皆」に作る；訂正本は「的」に作る。  
◎「的」に作る。
111. 下45b5/19左：廂庫本はこの部分を取り取って紙を貼り、活字で 'er を印字する。  
◎もともと 'er である。
112. 下45b8/10右：廂庫本はこの部分を取り取って紙を貼り、活字で gym を印字する。  
◎もともと gym である。
113. 下45b7/6右〔紬〕：訂正本ではこの部分を取り取って紙を貼り、筆で ciu を記入する<sup>51)</sup>。  
◎切り取って紙を貼り、筆で ciu を記入する。
114. 下46b2/17右〔秋〕：二本ともこの部分を取り取って紙を貼り、筆で ciu を記入する。  
◎切り取って紙を貼り、筆で ciu を記入する。
115. 下47a1/13-15右：廂庫本は dio-hon-jyng に作る；訂正本は dio-hyn-jong に作る。下47a1/13-15左：廂庫本は mis-go-gy に作る；訂正本は meis-go-gym に作る。



◎それぞれ dio-hyn-jong、meis-go-gym に作る。

116. 下47b3/3右：二本とも bum に作るが bom に作るべきである。

◎ bum に作る。

117. 下47b9/17：廂庫本では「緑」に作る；訂正本では「縁」に作る。

◎「縁」に作る。

118. 下49a5/16右：廂庫本では 'yi に作る；訂正本では 'in に作る。

◎ 'in に作る。

119. 下49a7/11：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で「幫」を印字する。

◎もともと「幫」である。

120. 下49b1/4右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で nom を印字する。

◎もともと nom である。

121. 下49b8/3左：廂庫本では bsur に作る；訂正本では bsyr に作る。下

49b8/6左：廂庫本ではこの部分を切り取って白紙を貼付する；訂正本ではもともと空格である。

◎前者は bsyr に作る。後者はもともと空格である。

122. 下49b8/15：廂庫本では「之」に作る；訂正本では「乏」に作る。

◎「乏」に作る。

123. 下49b10/7左：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で gyi を印字する。

◎もともと gyi である。

124. 下50a9/10右：廂庫本は活字 hoa に筆で終声 ng (○) を加え hoang に作る。

◎もともと hoang である。

125. 下51a5/17左右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左 he、右 sim を印字する。

◎もともと左 he、右 sim である。

126. 下51a6/17右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で sim を印字する。

◎もともと sim である。

127. 下51a10/16左右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左 'y、右 'es を印字する。

- ◎もともと左'y、右'esである。
128. 下51b1/19左右〔不〕：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左bu'、右buを印字する。
- ◎もともと左bu'、右buである。
129. 下51b10/5-6左右：廂庫本ではこの部分を切り取って紙を貼り、活字で左bsy-ri、右hi-'aを印字する<sup>52)</sup>。
- ◎もともと左bsy-ri、右hi-'aである。
130. 下52a10/12右：二本ともrenに作るがreとすべき。
- ◎renに作る。
131. 下56b6/17右：二本とも'aiに作るがmaiとすべき。
- ◎'aiに作る。
132. 下56b8/15右：廂庫本はgeに作る；訂正本はgesに作る。
- ◎gesに作る。
133. 下57a1/15右：廂庫本は空格である；訂正本はsiogに作る。
- ◎siogに作る。
134. 下57b7/7左：廂庫本は空格である；訂正本はsisに作る。下57b7/9左：廂庫本はn；訂正本はneに作る。
- ◎それぞれsis、neに作る。
135. 下59a6/4左：廂庫本はbserに作る；訂正本はbsyrに作る<sup>53)</sup>。
- ◎bsyrに作る。
136. 下59a10/12右：二本ともbdyに作る。
- ◎bdyに作る。
137. 下61a1/6左右：訂正本はこの部分を切り取って紙を貼り、筆で左tie'、右tieを記入する<sup>54)</sup>。
- ◎切り取って紙を貼り、筆で左tie'、右tieを記入する。
138. 下61a2/4左右：廂庫本は左がbse、右が空格である；訂正本では左がbsem、右がcimに作る。
- ◎左bsem、右cimに作る。
139. 下61a2/17右：廂庫本はjioに作る；訂正本はjiogに作る。
- ◎jiogに作る。
140. 下61a4/10右：廂庫本は'yに作る；訂正本は'ugに作る。
- ◎'ugに作る。
141. 下61a5/10右：廂庫本は活字buの初声に筆でs(入)を加えsbuに作

る；訂正本はもともと sbu である。

◎もともと sbu である。

142. 下61a7/10右：廂庫本は co に作る；訂正本は cong に作る。

◎ cong に作る。

143. 下64b9/10-16左：廂庫本はこの部分を切り取って紙を貼り、活字で「癸 nen-'i-tien-gan-'i-'o」を印字する。

◎もともと「癸 nen-'i-tien-gan-'i-'o」である。

### 4.3. 小結

以上で奎章閣蔵の二本におけるすべての相違点が網羅されているというわけではないが<sup>55)</sup>、方氏が挙げる185項目を検討した限りでは、天理本の状況はほぼ訂正本と一致していることが確認される。

巻上の42項目では、廂庫本・訂正本とも同じ訂正状況になっているものが大部分であり、天理本もほとんどの場合それに一致している。完全に一致しているとは言えない17、22、26、33、36、42などの項目は、方氏の記述自体の正確さが疑われるものや、文字のかすれ具合の違いといった印刷上の問題に過ぎないであろう。また、廂庫本と訂正本の訂正状況がわずかながら異なる4、18、22、37などの項目において、天理本の状況はすべて訂正本の方と一致している。

巻下の143項目においては、巻上と異なり、廂庫本と訂正本の状況が相違するものが大部分であるが、天理本はそのほとんどにおいて訂正本に一致する。即ち、方氏論文において廂庫本と訂正本が異なると記されている1、2、3、4、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、43、44、45、46、49、50、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、69、70、71、72、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、101、104、105、110、115、117、118、121、122、132、133、134、135、138、139、140、141、142の99項目において、補写部分を含む22を除き、天理本は廂庫本に一致せず訂正本の方に一致している<sup>56)</sup>。以上により、天理本が奎章閣蔵の訂正本、即ち奎1528と同じ系統に属するテキストであることは疑問の余地がないであろう。

## 5. その他の問題

### 5.1. その他の訂正

その他に、天理本には方氏論文において言及されていない印出後の訂正が5箇所ほど見られるので、上と同様の体裁で記しておきたい。

1. 上4a4/6-7左：この部分を切り取って紙を貼り、筆で‘i-nenを記入する。
2. 上5b10/10左右〔上〕：この部分を切り取って紙を貼り、筆で左  $\text{\textcircled{S}}$ siang、右 siang を記入する。
3. 上17b10/14左右〔火〕：この部分を切り取って紙を貼り、筆で左 hue、右 ho を記入する。
4. 下26b9/3左〔價〕：この部分を切り取って紙を貼り、筆で gia を記入する。
5. 下65a7/1左右〔錢〕：この部分を切り取って紙を貼り、筆で左 jien、右 cien を記入する。

これらの5例について、影印を用いて帙庫本の状況を確認してみると、いずれも文字の上では天理本と同じように作られている。ただし、それがもとの活字からそうなのか、印出後の訂正によってそうなっているのか、訂正は筆であるのか活字であるのか、正確なことは不明とせざるを得ない。

### 5.2. 版面の違いと魚尾

さて、方氏論文の記述を検討してみると、巻下における帙庫本と訂正本の相違点には、両者でもとの活字が異なっている、帙庫本のみが印出後の訂正を行っている、訂正本のみが印出後の訂正を行っている、両者がともに印出後の訂正を行っている、という具合にいくつかのパターンが混在していることに気づくであろう。これに関して、方氏論文及び安乗禧(1996)の記述を手がかりに若干の検討を試みることにしたい。

まず、方氏は巻下において帙庫本と訂正本が全くの同版である葉として、第1、18、33、37、38、40、41、46、48、54、55、58、60、62、63、65の全16葉を挙げている<sup>57)</sup>。これを上で検討した項目に照らしてみると、第1葉に関する1-4、第37葉に関する93-94、第40葉に関する95、第41葉に関する96-98、第46葉に関する114の各項目のうち、第37、40、41、46の各葉に関する項目では二本とも全く同じ訂正が施されており、同版であるという方氏の見解に矛盾しないが、第1葉に関する項目において二本の状

況は異なるので、この葉については同版でないと思われる。

次に、安氏によると、訂正本における巻下の第4、7、11、14葉などは、印出後の訂正をもとに再度組版をし直して印刷された葉であり、そのことは他の葉が版心に二葉花紋魚尾を持つのに対し、これらの葉が三葉花紋魚尾を持つことによって区別されているという。ここから安氏は、訂正本は廂庫本とほぼ同じ時期に、誤字が甚だしい葉については新たに組版をするという形で作られたものではないかと推定している。

天理本の巻下において版心に三葉花紋魚尾を持つ葉は第4、7、11、14、17、19、23、28、31、34、38、41、45、49、51、54、57、59、62、66の全20葉であり<sup>58)</sup>、また影印によって判明する限りでは、廂庫本の巻下において三葉花紋魚尾を持つ葉は第38、41、54、62の全4葉である<sup>59)</sup>。なお、巻上における天理本と廂庫本の魚尾については完全に一致している<sup>60)</sup>。

これを見てまず気づくのは、廂庫本において三葉花紋魚尾を持つ葉は天理本のそれに重なり、かつ上で廂庫本・訂正本が同版であるとされた葉にも重なるということである。また、第4葉に関する10-12、第7葉に関する21-24、第11葉に関する36-40、第23葉に関する52-54、第28葉に関する63、第31葉に関する68-69、第34葉に関する77-85、第41葉に関する96-98、第45葉に関する108-113、第49葉に関する118-123、第51葉に関する125-129、第57葉に関する133-134、第59葉に関する135-136の各項目を見ると、三葉魚尾を持つ葉が新たに組版されたものだという安氏の見解に矛盾する事実は原則として存在しないと言える<sup>61)</sup>。ただ、方氏の記述から見て版面が異なると推定される葉は他にもあり、魚尾が二葉か三葉かという点のみが弁別的な情報であるかという点については疑問が残る。

総じて言えば、廂庫本・訂正本・天理本とも、未訂正の葉、訂正が施された葉、訂正をもとに再度組版された葉などが混在した状態にあると思われるが、ただ巻下に関して訂正本・天理本の方が廂庫本よりも優れたテキストであるという点は揺るがないと思われる。

## 6. おわりに

本稿では、天理図書館に所蔵される内賜本『老乞大諺解』の書誌的状況、特にその印出後の訂正について、方鍾鉉（1946）において言及される二本

との比較から記述してみた。なお、今回記述の対象としなかった天理本における欠落部分の補写については、稿を改めて論じる予定である。

本来ならば、このような調査は今から50年以上前に発表された論文に基づいて行うべきものではなく、奎章閣に所蔵されるそれぞれの原本を実見した上で行うのが望ましいことである。これはあと二本現存する他の内賜本についても同様であって、本稿の記述がいわば予備的調査の段階にとどまるものであることは言うまでもない。

2006年に「集部」が刊行された藤本幸夫氏の大著『日本現存朝鮮本研究』は、「史部・子部」が2010年、「経部・補遺・総索引」が2012年、「図録編」が2013年に刊行される予定であるという。本稿で取り上げたような問題も、いずれ藤本氏による詳細な書誌が明らかにされることを思えば、何も門外漢の筆者が拙い研究ノートを公にする必要はないのだが、日本に内賜本の『老乞大諺解』が存在するという事実をもっと広く知られてよいと思われるので、あえて筆をとった次第である。諸賢のご批正を乞う。

## 注

- 1) 朱徳熙 (1958) は、『朴通事』に高麗の名僧歩虚 (普愚, 1301-1382) が大都の永寧寺で法会を開いたというエピソードが見られることから、『老乞大』・『朴通事』二書の成立を彼の入元 (1346) から元朝滅亡 (1368) までの間と推定している。
- 2) 『成宗實録』11年10月乙丑の条には成宗が『老乞大』・『朴通事』の刪改を命じたという記事があり、同14年9月庚戌の条には房貴和と葛貴が二書を校正したという記事が見られる。小倉 (1940) 等参照。
- 3) 「今本/新本」系の現存テキスト全般、及びその漢字部分の異同に関しては拙稿 (2005) を参照。
- 4) 『老乞大諺解』には活字本の他に、英祖21年 (1745) に箕營 (平安監營、現在の平壤) で刊行された木版本、いわゆる平安監營重刊本が現存する。
- 5) 奎章閣は正祖元年 (1776) に設立された王室の文書保管庫兼図書館である。植民地化による廃止に伴って蔵書は1928年に京城帝国大学図書館に移管され、第二次大戦後はソウル大学校図書館がそれを管理していたが、1992年にソウル大学校奎章閣として独立した。
- 6) 采華書林 (1972)、亞細亞文化社 (1973)、聯經出版 (1978)、汪維輝編 (2005) はすべて奎章閣叢書の再印である。
- 7) 奎章閣に所蔵される四本の登録番号は、奎2044が「奎/3917/4A」、奎2304

- が「奎複/3917/4A」、奎2347が「奎複2/3917/4A」、奎1528が「奎複3/3917/4A」であり、奎2044が正本、それ以外が複本という扱いを受けている。安氏はこのことも影印底本の選定に影響したであろうとする。
- 8) 藤本(1994)の言及は以下の通り:「もし地方官衙に全面的に委ねて、それぞれ自由に版下を作って版を起させると、藍本が悪かったり、校正が緻密さを欠いたりして、内容の粗悪な版が生ずることになるであろう。従って中央の校書館でよき藍本に依拠し、校正を緻密に施した善本を作って地方官衙に供するのである。」
  - 9) 漆谷本には「康熙十四年正月二十九日 内賜承政院假注書李鼎命 老乞大諺解一件云云」という内賜記があり、これが康熙14年(肅宗元年、1675年)に下賜されたことを示しているという。
  - 10) 安氏によると、本書は「訂正本老乞大諺解の發見を契機として」という副題を持ち、巻頭の「小引」において末松保和氏が刊行に至る経緯を述べているという。安氏は通文館主人李謙魯氏の所蔵本によって記述しているようだが、筆者は現在のところ未見である。
  - 11) 『老乞大・朴通事』関係文献の目録である遠藤光暁(1990: 225)では、「天理図書館蔵今西春秋旧蔵書(829.1夕11)」を清代改訂本の一つである『重刊老乞大諺解』(1795年)の銅活字版(丁酉字本)として挙げている。同館の図書カードには「老乞大諺解 丁酉字本」という記述があり、ここからこのような分類がなされたものと思われる。同目録の増補版である遠藤光暁他(2008: 623)ではこの点について修正がなされている。
  - 12) 原三七(1961: 2)、漢・諺文類経部。
  - 13) 国立文化財研究所(2005: 266)、子部訳学類。なお原文は韓国語につき一部翻訳した上で示す。
  - 14) これが何の大きさを示したものか不明。あるいは「宣賜之記」印の大きさかとも想像する。
  - 15) ただし、出現箇所の行数や字数などが相違すると思われる場合には、特に断らず修正して示す。
  - 16) 河野式ではそれぞれ s, ss, c, j, jj, iue の転写を用いる。
  - 17) 藤本(1994)は、活字を用いて訂正する場合に「活字を押してから紙を貼る」方法と「白紙を貼ってから活字を押す」方法の二つがあることを指摘し、訂正箇所が多数に及ぶ場合は判別の鍵を得ることも可能であるという。即ち、第一の方法の場合は押された活字の一部分が本紙の中に入り込んで一部が見えなくなることがあり、第二の方法の場合には活字が窓の部分から外にはみ出て本紙にかかることがあるためである。藤本氏によれば、内賜本はすべて第一の方法により訂正が施されるといい、訂正する側からすれば第二の方法の方がずっと手間が省けて容易であるにもかかわらず、第一の方法が採られ

るのは「手間をかけるということが誠心を籠めているという意味を有するからではないか」と推定している。

- 18) 方氏論文では s (入) と s̄ (入) の区別が明確でない。
- 19) 方氏論文では j̄ (入) と j̄ (入) と j̄ (入) の区別が明確でない。
- 20) 方氏論文では c (入) と c̄ (入) の区別が明確でない。
- 21) 方氏論文でいう箕營本とはいわゆる平安監營重刊本のことを指す。
- 22) 方氏論文ではこれについて、廂庫本があらかじめ k (入) を記した紙を貼付する際に、上下を逆にしたためであろうと述べている。
- 23) 方氏論文では d (入) と dd (入) の区別が明確でない。
- 24) 方氏論文では、筆で書き足しただけであるため、完全な bb (入) の形にはなっていないとしている。
- 25) 方氏論文ではもとの活字を rao としている。
- 26) 方氏論文では v (入) と w (入) の区別が明確でない。
- 27) 方氏論文では二箇所とも筆で riao を記入するとあるが、上23b8/4右についてはもともと riao である。仮にこれが「上23b7/5左」について言ったものとすれば、そこには紙が貼られ筆で riaw が記入されている。
- 28) 方氏論文では ' (入) と ng (入) の区別が明確でない。
- 29) 方氏論文では訂正本が rao に作るとされている。
- 30) 方氏論文では ss (入) と ss̄ (入) と ss̄ (入) の区別が明確でない。
- 31) 方氏論文では ss (入) と ss̄ (入) と ss̄ (入) の区別が明確でない。
- 32) 方氏論文では c (入) と c̄ (入) と c̄ (入) の区別が明確でない。また廂庫本が cu に作るとされている。
- 33) 方氏論文では s (入) と s̄ (入) の区別が明確でない。なお、方氏論文ではこれにより、二つのテキストの版面が異なることを示唆している。
- 34) 方氏論文では j (入) と j̄ (入) と j̄ (入) の区別が明確でない。また訂正本が jyng に作るとされている。
- 35) 方氏論文では j (入) と j̄ (入) と j̄ (入) の区別が明確でない。また廂庫本が jyng に作るとされている。
- 36) 方氏論文では j (入) と j̄ (入) と j̄ (入) の区別が明確でない。
- 37) 影印で見る限り、廂庫本では左 'iaw、右 'iao に作る。
- 38) 方氏論文では31と32について、この葉では二つのテキストの版面が異なり、ともに印出後の訂正を行っている指摘している。
- 39) 方氏論文におけるこの条は出現箇所が示されておらず、また内容面でも誤脱があるらしく意味を取ることができない。
- 40) 方氏論文では訂正本が moin に作るとされている。
- 41) 方氏論文では訂正本において 'o は左にあるとされている。なお、影印で見る限り、廂庫本において 'o は左にある。



- 42) 方氏論文によると、本来は de に筆を加えて dei に改めようとしたものであろうとしている。
- 43) 方氏論文では、廂庫本が 'ar-pe に作るとされている。
- 44) 方氏論文では s (ハ) と ʃ (ハ) の区別が明確でない。また右が su に作るとされている。
- 45) 影印で見る限り、廂庫本では ai (ㄩ) と ei (ㄩ) が重なって、sai とも sei ともつかない字形をしている。
- 46) 影印で見る限り、廂庫本では myr に作る。
- 47) 影印で見る限り、廂庫本では「孛」に作る。
- 48) 方氏論文では g (ㄱ) と j (ㄱ) の区別が明確でない。
- 49) 方氏論文では jj (ㅈ) と ʃj (ㅈ) の区別が明確でない。
- 50) 方氏論文では j (ㅈ) と ʃ (ㅈ) 及び s (ハ) の区別が明確でない。
- 51) 影印で見る限り、廂庫本では ciu に作る。
- 52) 方氏論文では左が bu'-ri に作るとされている。
- 53) 方氏論文では訂正本でも bsur に作るとされている。
- 54) 影印で見る限り、廂庫本では左 tie'、右 tie に作る。
- 55) 方氏論文には、非常に数が多いため巻下の31以降は重要なものに関わり言及するとの注意書きがある。また、安乗禱 (1996) においても、異同は金壽卿・方鍾鉉両氏が言及するものよりもさらに多いと記されている。
- 56) これに加え、方氏論文において訂正本の状況のみが記されている31、52、99、100、102、113、137の7項目では、補写部分を含む100を除き、天理本は訂正本に一致し、廂庫本の状況のみが記されている47、48、51、53、54、68、73、103、106、107、108、109、111、112、119、120、123、124、125、126、127、128、129、143の24項目では、天理本は廂庫本に一致せず、二本とも同じ状況であると記されている93、94、95、96、97、98、114、116、130、131、136の11項目では、天理本はそれに一致する。
- 57) なお、方氏は巻下の94の後に記された部分では同版の葉を第18、33、37、38、40、41、46、48、54、55、58、60の全12葉とし、143の後に記された部分ではそれを第1、18、33、40、41、46、48、54、55、58、60、62、63、65の全14葉としている。
- 58) 天理本の巻下ではほとんどの葉で版心上部に欠落が見られるため、上魚尾の状態は不明なものが多い。なお、ここには挙げなかったが第61葉は上魚尾が三葉、下魚尾が二葉を持つ。
- 59) なお、第30葉と第39葉は上魚尾が二葉、下魚尾が三葉を持つ。
- 60) 天理本・廂庫本とも、巻上において版心に三葉花紋魚尾を持つ葉は第36、39、42、45、48、51、54、57、60、64の各葉である。
- 61) 版心に三葉魚尾を持ちながら訂正が施されている96、97、98、113の各項目

目については、組版を新たにして印刷されたものの、なお誤字があったため訂正が施されたという解釈になる。

### 参照文献

- 亞細亞文化社 (1973) 『老乞大朴通事諺解』 서울: 亞細亞文化社。
- 安秉禧 (1996) 「《老乞大》와 그 諺解書의 異本」 서울大學校 『人文論叢』 35: 1-20.
- 遠藤光曉編 (1990) 「老乞大・朴通事研究文獻目録 (初稿)」 『《翻譯老乞大・朴通事》漢字注音索引』 224-238. 東京: 好文出版 (『開篇』 単刊 3)。
- 遠藤光曉・伊藤英人・竹越孝・史科慎一・曲曉雲編 (2008) 「韓漢語言史資料研究文獻目録」 遠藤光曉・嚴翼相編 『韓漢語言研究』 507-693. 서울: 學古房。
- 汪維輝編 (2005) 『朝鮮時代漢語教科書叢刊』 2. 北京: 中華書局。
- 小倉進平 (1940) 『増訂朝鮮語學史』 東京: 刀江書院。
- 奎章閣 (2003) 『老乞大・老乞大諺解』 서울: 서울大學校奎章閣 (奎章閣資料叢書・語學篇 1)。
- 京城帝國大學 (1944) 『老乞大諺解』 京城帝國大學法文學部 (奎章閣叢書 9)。
- 國立文化財研究所 (2005) 『海外典籍文化財調査目録: 日本天理大學天理圖書館所藏韓國本』 大田: 國立文化財研究所。
- 采華書林 (1972) 『老乞大諺解・朴通事諺解』 名古屋: 采華書林。
- 朱德熙 (1958) 「《老乞大諺解》《朴通事諺解》書後」 『北京大學學報 (人文科學)』 1958/2: 69-75; (1999) 『朱德熙文集』 3: 262-275. 北京: 商務印書館。
- 竹越孝 (2005) 「今本系《老乞大》四本的異同點」 嚴翼相・遠藤光曉編 『韓國的中國語言學資料研究』 129-159. 서울: 學古房。
- 原三七編 (1961) 『今西博士蒐集朝鮮關係文獻目録』 東京: 書籍文物流通會。
- 藤本幸夫 (1994) 「朝鮮本の訂正に就いて—『重修政和經史証類備用本草』を中心にして—」 『朝鮮文化研究』 1: 93-136.
- 藤本幸夫 (2006) 『日本現存朝鮮本研究・集部』 京都: 京都大學學術出版會。
- 方鍾鉉 (1946) 「老乞大諺解의 廂庫本과 訂正本과의 比較」 『한글』 96: 42-55; (1963) 『一簣國語學論集』 340-359. 서울: 民衆書館。
- 聯經出版 (1978) 『老乞大諺解・朴通事諺解』 臺北: 聯經出版事業公司。